

## 1. 授業の概要(ねらい)

「教育とは何か」という大きな問題を、様々な角度から深く考え、自ら答えを出していけるよう、教育の世界に迫ることをねらいとする。ディスカッションやグループワークを通して、共に探究し、共に分かち合う中で、学びの原理を捉えていく。教育学の入門として、さらに教職を目指すとうすることへの指針となるよう、深く追究する姿勢も身につけることとする。

## 2. 授業の到達目標

学校や教育そのものを取り巻く状況を的確に捉え、新しい時代の教育ニーズに応えようとする姿勢を身につけることができる。自ら考え、自らを開拓していくプロセスを大事にし、教育の問題に主体的に関わろうとする。

## 3. 成績評価の方法および基準

授業中の提出物(30%) 授業中のディスカッションなどの活動の様子・取り組み方(30%) 記述試験・レポート作成(40%)で総合的に評価を行う。

## 4. 教科書・参考文献

教科書

なし

参考文献

島田和幸他 教育原理 ミネルヴァ書房

## 5. 準備学修の内容

学んだ内容を整理しながら、自分の考えを付け加えて、ノートづくりを丁寧に行うこと。参考文献をもとに、関連する分野の書籍に関心を持ち、読んでみることを。

## 6. その他履修上の注意事項

教職課程として位置づいている授業なので、自らの教職への意識を高めて授業参加してほしい。基本的には、15回の授業の出席を基本とする。

## 7. 授業内容

- 【第1回】 こどもの発達と教育の目的  
共同社会 近代以降の教育 方法的社会化 教育科学
- 【第2回】 教育とは何か  
人間として 固有の営み 形式陶冶と実質陶冶
- 【第3回】 教育の歴史(1)  
学校の在り方 公教育の思想 近代の規律
- 【第4回】 教育の歴史(2)  
古代ギリシアの教育思想 古代ギリシアの哲学者 ソフィスト的弁論術と教養観
- 【第5回】 教育の歴史(3)  
コメニウス ロック ルソー カント 教育思想家
- 【第6回】 教育の歴史(4)  
新教育運動 近代教育学の夜明け ブルーナーと系統主義
- 【第7回】 教育の歴史(5)  
日本の教育史 近代学校 公教育の普及 ヘルバルト学派批判と新教育
- 【第8回】 「教える」仕事(1)  
教育課程と授業の計画 カリキュラムの類型 学習指導要領
- 【第9回】 「教える」仕事(2)  
授業実践と振り返り 授業づくり 教材研究
- 【第10回】 「教える」仕事(3)  
教育評価 主体と方法 カリキュラムマネジメント 評価とアセスメント
- 【第11回】 「教える」仕事(4)  
学校・学級経営 担任としての仕事
- 【第12回】 学び続ける教師  
資質能力の向上 志のある教師 求められる教師像
- 【第13回】 社会教育と生涯学習  
社会教育の施設 公民館 学校教育との連携・協働
- 【第14回】 地域社会と学校  
地域と学校の連携 地方創生と学校 地域社会の範囲
- 【第15回】 現代日本の教育課題  
いじめ不登校問題 子どもの貧困 家庭の機能 国際化・情報化 論理的思考とプログラミング